

平成 29 年度事業報告

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

1 事業概要

千葉県畜産を、最新の産出額で見ますと 1, 354 億円（平成 28 年）と過去最高であり、全国第 5 位の畜産物生産県として、首都圏への食料供給基地の役割を担っています。また、農業産出額合計で見ても、畜産は 28.7% を占めており、千葉県農業における主要品目となっていることがわかります。

しかしながら、規模拡大の遅れ、労働力や後継者問題等による飼養戸数や頭数の減少など、生産基盤の弱体化が懸念されています。

また、養豚では慢性疾病の浸潤や拡大による生産性の低下、養鶏における高病原性鳥インフルエンザの発生リスクが大きな問題となっています。

さらに、EU などとの EPA や TPP 11 等による国際化の急速な進展による、県産畜産物への影響が心配されているところです。

このような状況にあつて、当協会は「公益社団法人」としての社会的使命・役割を十分に認識し、県民・消費者と畜産経営者、関係団体・行政機関等との密接な連携に努め、安全で信頼される県産畜産物が安定的に供給されるよう、様々な事業に取り組み、千葉県の畜産振興に努めてまいりました。

平成 29 年度は、畜産経営を支援する事業として 12 事業、家畜衛生向上及び環境に関する事業として 14 事業、畜産の活性化を進める事業として 3 事業、畜産物の品質向上を図る事業として 2 事業、畜産経営の安定化を図る事業として 5 事業、調査研究及び研修に関する事業として 1 事業並びに特別事業として 1 事業、計 38 の事業を実施してまいりました。

特に、酪農業においては、毎日欠かすことができない搾乳や給餌作業、深夜対応も求められる分娩監視等、酪農家の労働負担が大きいことが、離農の原因や後継者による継承が進まないことの一因となっており、労働負担軽減・省力化等の取組みに必要な機械装置の導入を支援する「酪農経営体生産性向上緊急対策事業」の本県窓口として、事業の円滑な推進に努めてまいりました。

また、家畜衛生関係では、酪農・肉牛においては、EBL（牛白血病）、BVD-MD 対策、養豚においては、オーエスキー病や PRRS 等の慢性疾病対策事業を実施し、疾病低減による生産性の向上、さらに、高病原性鳥インフルエンザ等の悪性家畜伝染病の侵入防止対策として、飼養衛生管理基準の普及啓発等の事業を推進して

きました。なお、オーエスキー病については、長年の対策と生産者及び関係者の御尽力により、平成30年3月末日をもって清浄県になったことは特筆すべきことです。

そのほか、ナイスポークチバ推進協議会及びチバザビーフ協議会等、計10団体の事務局をも務め、生産者や関係機関・団体等との連携・協力を得ながら円滑な団体運営・効率的な事業推進を図り、第11回畜産フェアの開催等を通じ、県畜産産物の知名度向上及び消費拡大等を図ってまいりました。

2 会員及び役職員の構成（平成30年3月31日現在）

（1）会員

区分	計
県域畜産団体	21
市町村	51
自衛防疫組織	49
農協・会社等	30
生産者組合等	12
賛助会員	6
合計	169

（2）役員

（単位：名）

会長	副会長	専務理事	理事	監事	計
1	5	1	10	3	20

（3）職員

（職種別）

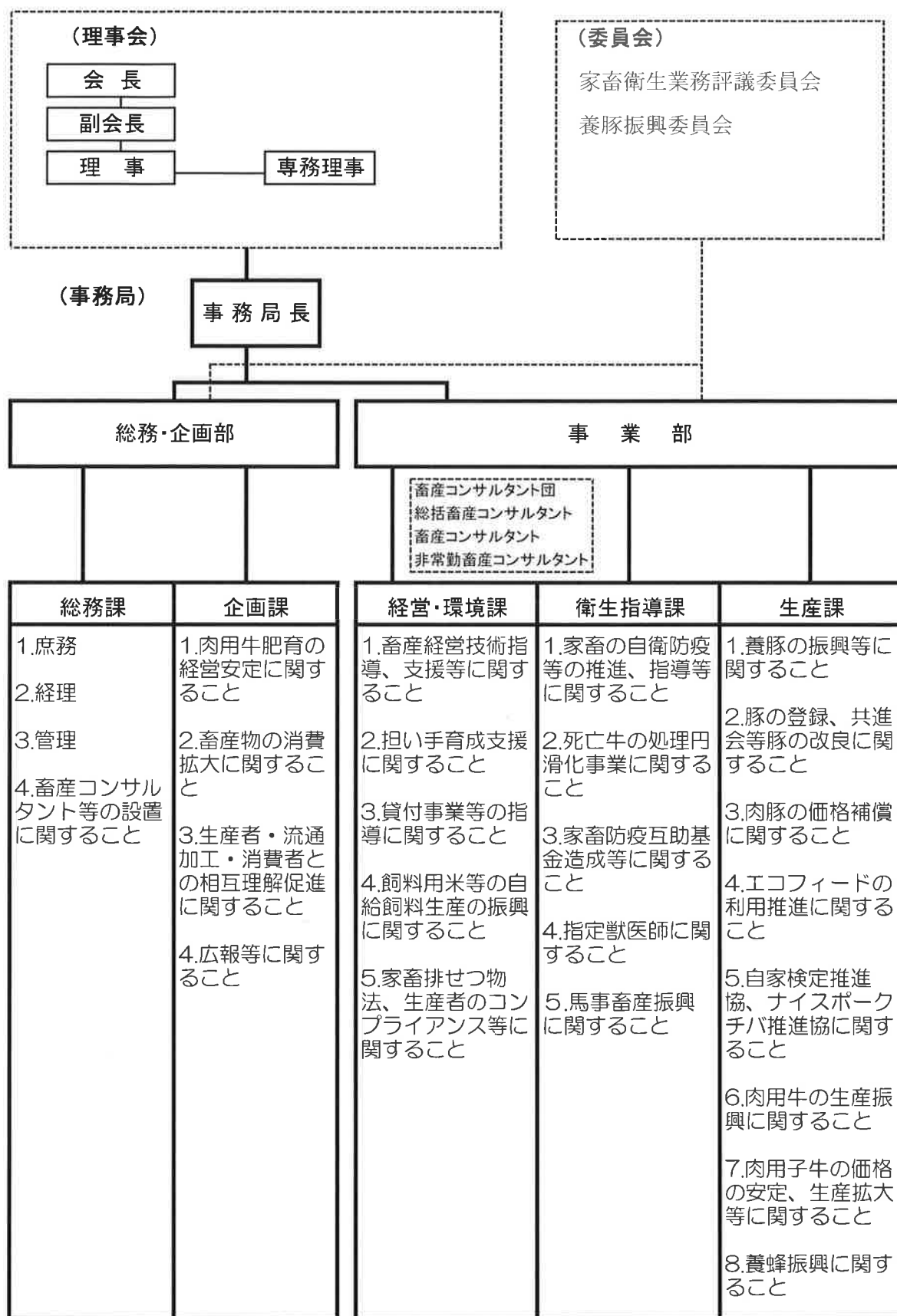
（単位：名）

区分	総括畜産 コンサルタント	畜産 コンサルタント	技術職員	臨時職員	合計
人数	6	4	1	6	17

（所属別）

（単位：名）

区分	職員	嘱託及び 臨時職員	合計
専務理事・事務局長	2	—	2
総務・企画部	4	3	7
事業部	3	5	8
合計	9	8	17



3 会議の開催

(1) 監事会

期 日	場 所	内 容
平成29年6月1日	K & T 千葉ビル	平成28年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について

(2) 理事会

期 日	場 所	内 容
平成29年6月5日	ホテルプラザ 菜の花	1) 平成28年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 定款の一部改正について 3) 諸規定の一部改正について 4) 平成29年度会費の額及び徴収方法について 5) 役員の補欠選任について 6) 役員の報酬額について 7) 平成29年度定時総会について 報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について 会員の退会について
平成29年6月26日	ホテルプラザ ちば	1) 副会長、専務理事の互選について
平成29年10月2日	書面決議	1) 会員の入会について 2) 諸規定の一部改正について 3) 平成30年度臨時総会について
平成30年3月5日	ホテルプラザ 菜の花	1) 平成30年度事業計画及び収支予算について 2) 平成30年度借入金の最高限度額及び借入先の決定について 3) 肉用子牛生産者補給金交付業務規程の一部改正について 報告事項 1) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について 2) 監事選任の手続きについて

(3) 総 会

期 日	場 所	内 容
平成29年6月26日	ホートプラザちば	報告事項 1 平成28年度事業報告について 2 平成29年度事業計画並びに収支予算について 議案 1) 平成28年度貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 定款の変更について 3) 平成29年度会費の額及び徴収方法について 4) 役員の補欠選任について 5) 役員の報酬額について
平成29年10月24日	K & T 千葉ビル	1) 役員の補欠選任について

(4) 家畜衛生業務評議委員会

平成29年5月19日	ホテルプラザ菜の花	1) 平成28年度家畜衛生業務関係事業の実績について 2) 平成29年度家畜衛生業務関係事業の計画について 3) 家畜衛生業務に係る指定獣医師の諮問について 4) 国及び県の主な家畜衛生対策事業について
平成30年3月7日	ホテルプラザ菜の花	1) 平成29年度家畜衛生業務関係事業の進捗状況について 2) 平成30年度家畜衛生業務関係事業の計画について 3) 平成30年度市町村等自衛防疫活動支援事業について 4) 平成30年度牛病及び豚病のワクチン接種に係る農家負担額について 5) 平成30年度オーエスキー病清浄化対策について 6) 自衛防疫対策基金の運用について

(5) 養豚振興委員会

期 日	場 所	内 容
平成29年7月27日	千葉県教育会館	1) 平成29年度千葉県肉豚共進会について 2) 平成29年度養豚経営安定対策事業（豚マルキン）について 3) 養豚経営安定対策補完事業について 4) 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策（畜産クラスター事業）について 5) 豚改良対策基金及び助成について 6) 系統造成豚普及に向けての取組みについて 7) ナイスポークチバ推進協議会の活動について 8) その他
平成29年11月30日	千葉県森林会館	1) 平成29年度千葉県豚共進会終了と来年度について 2) 平成30年度養豚振興委員の改選について 3) 養豚経営安定対策事業（豚マルキン）について 4) 畜産クラスター事業について 5) 系統造成豚（L4）について 6) ナイスポークチバ推進協議会の活動について 7) その他

(6) 定例会議

原則として、毎月末に常勤役職員による定例会議を開催し、翌月以降の事業の計画的な推進と進捗状況の確認及び業務の円滑化・効率化に努めた。

I 畜産経営を支援する事業

1 地域畜産支援指導等体制強化事業（地方競馬全国協会）**公益**

地方競馬全国協会からの補助金を得て、①畜産経営の支援体制の強化を図る事業、②地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供に資するための事業、③馬事普及啓発の推進体制の強化を図る事業に係る3事業を実施した。

2 畜産コンサルタント等設置事業（県）**公益**

畜産経営の経営改善を図るため、組織活動支援を含めた経営改善指導を実施した。

3 会報誌編集発行事業（協会単独）**その他**

畜産の生産から流通・消費に関する最新情報を、協会の情報誌「畜産ネットワークちば」を3回（第39号～41号 各1,700部）発行し、協会会員はじめ関係機関、団体に配布し畜産経営の支援等に資した。

4 地域畜産総合支援体制整備事業（県）**公益**

畜産経営の安定化に資するため、県及び関係機関・団体の協力を得て、畜産経営体に対する支援指導を行った。

(1) 畜産コンサルタント団の設置

区 分	総括畜産 コンサルタント	畜 産 コンサルタント	非常勤畜産 コンサルタント	フォローアップ 指導員
人数（名）	5	2	31	11

(2) 畜産経営体支援指導研究会

畜産経営技術等の支援指導・畜産経営状況調査を効果的に行うための具体的な指導内容・手法等を検討する総合委員会及び専門委員会を下記のとおり開催した。

① 総合委員会：平成29年7月7日

② 専門委員会：平成29年7月7日

(3) 畜産経営技術指導用機器の整備

畜産経営体の支援指導を効果的かつ効率的に行うため、経営支援用パーソナルコンピュータをリースした。

(4) 畜産経営技術の支援指導

畜産経営体等からの要請内容・経営水準・実態等に応じ、経営改善のための効果的な支援指導を次のとおり実施した。

① 個別支援指導

畜産経営体に対する経営診断改善指導・経営管理技術指導・生産技術指導・フォローアップ指導等を下記のとおり実施した。

項 目	経営診断 改善指導	経営管理 技術指導	生産技術 指 導	フォローアップ 指 導	計
戸数(戸)	1 3 (酪農)			1 0 (酪農)	2 3
件数(件)	1 3	1 3	1 3	3 0	6 9

② 地域支援指導

畜産経営技術に関する研修・意見交換等を行う場としての経営セミナー等を7回(参加者:324人)開催し、地域の経営体集団に対して経営改善のための支援を行った。

指導実績	開催期日	開催場所	人数	内 容
① 安房地域 畜産クラス ター研修会 (安房地域)	平成 29 年 7 月 24 日	南房総市	55 人 (16 人)	① 畜産クラスター事業を活用した 酪農振興について 担い手支援課 伊藤静雄
② 第1回安 房郡市乳牛 育成指導会 (安房地域)	平成 29 年 7 月 29 日	館山市	80 人 (30 人)	① 審査・審査研修 ② 意見交換
③ 安房地域 放牧研究 会茨城県 視察・研修 会 (安房地域)	平成 29 年 10 月 10 日	茨城県 稲敷市	21 人 (11 人)	① 現地視察・研修
④ 牛の見方 研修会 (安房地域)	平成 29 年 10 月 31 日	南房総市	47 人 (16 人)	① 牛の見方について (一社)日本ホルスタイン登録協会 梶沢洋二
⑤ 自給飼料 研修会 (印旛地域)	平成 29 年 12 月 7 日	佐倉市	25 人 (3 人)	① サイレージ品評会 ② 「身近に潜むカビ毒~カビ毒はど こから?その影響は?」 日本ニュートリション株式会社 獣医師 庄司明日香
⑥ 自給飼料 研修会 (香取地域)	平成 30 年 1 月 26 日	香取市	26 人 (13 人)	① 研修

⑦ 第2回安房郡市乳牛育成指導会(安房地域)	平成30年 2月24日	館山市	70人 (30人)	① 畜産クラスターを活用した地域の畜産振興について 県担い手支援課 大塚 洋功 ② 現地研修会 館山市 川名デーリィ
------------------------	----------------	-----	--------------	---

(5) 畜産経営関係情報のデータベースの整備

畜産経営体に対する効果的な支援指導を行う目的で、畜産関係情報のホームページによる提供を行った。

5 貸付事業指導等事業（（公財）畜産近代化リース協会）**その他**

畜産近代化リース協会からの畜産機械、施設等の借受者を対象にその効果的利用を促進するため、再貸付団体の協力を得て、56基について確認調査並びに指導を実施した。

1 再貸付団体

No.	再貸付団体名	生産者数	No.	再貸付団体名	生産者数
1	県みるく農協中央支所	3	7	八千代酪農協	4
2	県みるく農協東部支所	5	8	千葉北部酪農協	2
3	県みるく農協南部支所	21	9	全農千葉県本部	7
4	千葉県三和酪農協	3	10	真栄酪農会	2
5	東金酪農協	1			
6	千葉酪農協	8	計		56

2 貸付施設等

No.	貸付施設区分	調査数
1	自給飼料生産利用機械施設	25
2	生乳生産合理化施設	16
3	畜舎環境改善機械施設	15
4	生乳処理流通施設	0
計		56

6 畜産特別資金等推進指導事業（（公社）中央畜産会）**公益**

大家畜改善緊急支援資金、大家畜経営維持緊急支援資金、養豚改善緊急支援資金及び養豚経営維持緊急支援資金借入者の経営改善に資するため、年2回の県支援協議会（本協会事務局）を開催するとともに、現地調査等を実施し、経営改善方策等について検討の上、借入者に対する助言指導を行った。

また、現地調査指導等は生産者並びに融資機関を対象に行い、現状の問題点等について聞き取り助言指導を行った。

維持緊急支援6経営（肉用牛1、養豚5）

改善緊急支援4経営（酪農1、肉用牛1、養豚2）

7 肉用牛経営安定対策補完事業（（独）農畜産業振興機構）**公益**

（1）地域における肉用牛生産基盤強化等対策事業

肉用牛繁殖基盤の強化を目的とし、地域の中核となる担い手育成のための繁殖雌牛増頭のための奨励金の交付、肉用牛ヘルパー活動推進（削蹄、出荷、除角など）を推進した。

中核的担い手育成 増頭対策	千葉県肉牛生産農業協同組合 増頭奨励金 38頭
肉用牛ヘルパー活動推進	2カ所（安房・香取）各肉用牛ヘルパー利用組合の飼養管理、削蹄補助、出荷ヘルパー等の利用の推進

8 エコフィード・TMR普及定着推進事業（県）**公益**

畜産業において飼料自給率の向上は大きな課題であることから、千葉県ではエコフィード及びTMRの利用推進に取組み、飼料自給力の強化を図ってきた。

近年、エコフィードを新規に利用する農家が増えているほか、粕類等を活用したTMRの生産・利用も進んでいることから、今後はこれら国内由来飼料の普及に加え、利用の定着を図ることが求められております。

このため、エコフィード及びTMRの利用に精通した人材を千葉県エコフィードコンサルタントとして設置し、指導・調査及び研修会等を通じ、畜産農家におけるエコフィード・TMRの利用定着を図った。

9 畜産・酪農収益力強化総合対策基金事業（（公社）中央畜産会）**公益**

地域における中心的経営体の収益性の向上等に必要な機械装置の導入を支援する本事業の千葉県の窓口として、事業要望（96件）、参加申請（82件）のとりまとめ等を実施し円滑な事業推進を図った。

また、機械導入状況調査に係る現地調査等も実施した。

10 酪農経営体生産性向上緊急対策事業（（公社）中央畜産会）**公益**

酪農家における労働負担軽減・省力化等の取組みに必要な機械装置の挿入を支援する本事業の本県窓口として、事業の普及、事業推進指導業務を行い、実施計画申請（12件）の取りまとめ等を行った。

11 養豚経営安定対策補完事業（（独）農畜産業振興機構）**公益**

養豚経営の安定化を図るためには、更なる経営コスト削減及び生産性の向上を図っていくことが必要である。そのため、各地域における能力向上や能力評価に必要な一代雑種雌豚を導入し、養豚経営の体質強化を図った
3団体 養豚生産者7名 一代雑種雌豚168頭導入

12 畜産現場における障がい者の参画推進支援事業（畜産経営支援協議会）**その他**

地域の畜産関係者及び障がい者福祉の関係者に対し、畜産現場での障が

い者就労に関する相互理解と交流を深める会合を開催した。また、障がい者福祉施設の障がい者を対象に障がい者が就労している酪農現場を見学して交流を図った。

Ⅱ 家畜衛生向上及び環境に関する事業

1 家畜生産農場清浄化支援対策事業（国庫・公募事業）公益

牛ヨーネ病、豚オーエスキー病及び牛白血病の清浄化対策、牛ウイルス性下痢・粘膜病対策及び予防接種によるアカバネ病等の発生・流行防止対策を推進し、自主的な家畜防疫意識の向上と家畜の損耗防止を図り、もって畜産の健全な発展に資する。

（1）牛ヨーネ病清浄化支援対策

ヨーネ病発生農場の清浄化を図るため、ヨーネ病 PCR 検査で定量判定以下の DNA が検出された乳牛の自主とう汰に対して助成する。

・PCR（遺伝子診断）検査 0 頭 ・感染牛とう汰 1 頭

（2）牛白血病感染拡大防止対策

牛白血病の感染拡大防止を推進するため、抗体検査等に対して助成した。

・抗体検査 1, 161 頭 ・対象農家 20 戸

（3）牛ウイルス性下痢・粘膜病対策

牛ウイルス性下痢・粘膜病の清浄化を推進するため、発生農場等の重点的な検査、本病の持続感染牛のとう汰、ワクチン接種等に助成した。

・検査 3, 237 頭（15 農場） ・ワクチン接種 52 頭

・PI 牛のとう汰 26 頭（乳牛14頭、肉牛12頭）

（4）オーエスキー病対策

豚のオーエスキー病の清浄性を維持・確認するため、農場の清浄度を把握する検査及び感染豚摘発農場における淘汰に対し助成した。また、4 月以降、オーエスキー病抗体陽性豚が確認された農場で、年度末までにとう汰を完了する農場を対象に、ワクチン接種に対し助成する。

オーエスキー病ワクチン接種・検査等実績

ワクチン接種	清浄性確認検査※	感染豚とう汰
13, 300 頭	1, 586 頭	13 頭

※ 清浄性確認検査頭数には、採材のみの頭数162頭を含む

（5）疾病流行防止支援対策事業

牛の異常産の発生・流行を防止するため、下記のワクチン接種について助成した。

アカバネ病（単味）	異常産（3 種混合）
3, 861 頭	9, 507 頭

2 家畜防疫互助基金造成等支援事業（（独）農畜産業振興機構）**公益**

畜産経営に甚大な影響を及ぼす海外悪性伝染病（口蹄疫、牛肺疫、牛疫、豚コレラ、アフリカ豚コレラの5疾病）の発生に備え、牛及び豚飼養農家による互助基金の造成を支援し、万一の発生に際して同額の補助金（（独）農畜産業振興機構助成）を加えた互助金を交付し、損害及び経営再建への支援を図る。平成29年度は事業期間（平成27年度～29年度までの3か年）の3年目にあたる。

今期（平成29年度）の加入状況

牛			豚		
戸数	頭数	基金造成額	戸数	頭数	基金造成額
642戸	64,127頭	9,824,740円	175戸	566,731頭	23,672,270円

3 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業（国庫・公募事業）**公益**

牛海綿状脳症（BSE）検査が必要な48ヶ月齢以上の死亡牛の円滑・適正な処理を推進するため、死亡牛の発生農場から化製場までの輸送費及び焼却処理経費に対し助成した。

・輸送費（826頭）、適正化製処理費（798頭）

4 馬飼養衛生管理特別対策事業（（公社）中央畜産会）**その他**

馬の生産、流通の国際化等に伴い馬インフルエンザ等の侵入、流行の危険性が高いことから、競走馬以外の馬の獣医療実態調査、飼養衛生管理技術講習会等を行い、馬防疫の意識向上に努めた。

- (1) 馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催 1回 8名出席
日時：平成29年10月25日(水) 場所：ホテルザ菜の花（千葉市）
- (2) 馬飼養衛生管理技術講習会の開催 1回 30名出席
日時：平成30年2月8日(木) 場所：千葉市生涯学習センター（千葉市）
演題・講師
①馬術競技馬の運動科学
講師：JOC 日本オリンピック委員会強化スタッフ 月川大樹先生
②馬の皮膚疾患の診断方法と予防対策について
講師：日本中央競馬会 馬事部 防疫課 課長補佐 岡野篤先生
- (3) 地域馬獣医療技術基礎調査
乗馬クラブ等の馬飼養者を対象に「馬飼養衛生管理基準に基づく衛生管理区域の設定状況による予防衛生対策等に関する調査」を実施した。
調査対象戸数54戸、回答戸数22戸（41%）から回答が得られた。
- (4) 馬飼養衛生基礎技術実習 1回 5名出席
日時：平成30年3月26日(月) 場所：くるりライブストックポート（君津市）
講義：馬飼養衛生に関する臨床実習について（馬の取扱、診断・治療について）

講師：くるりライブストックサポート 藤田宏子先生

5 育成馬等予防接種推進事業（（公社）中央畜産会）**その他**

馬飼養の集団化、多様化及び煩雑な移動等の実態を踏まえ競馬場入きゅう前の育成馬等について予防接種の徹底を図るため、下記のワクチン接種に対して助成し、馬防疫の推進に努めた。

3種混合ワクチン			馬インフルエンザワクチン				日本脳炎 ワクチン	2種混合 ワクチン	計
1歳馬	2歳馬	計	1歳馬	2歳馬	繁殖牝	計	2歳馬	2歳馬	
20頭	27頭	47頭	7頭	7頭	0頭	14頭	10頭	24頭	95頭

6 馬伝染性疾病防疫推進対策事業（（公社）中央畜産会）**その他**

地域における自主防疫活動の強化を図るため検討会を開催し、競走馬以外の乗用馬等を対象とした馬インフルエンザワクチン接種の推進、軽種馬の繁殖牝馬を対象とした馬鼻肺炎ワクチン接種の推進を図った。

馬インフルエンザワクチン	馬鼻肺炎ワクチン
712頭（乗用馬 712頭、小格馬等 - 頭）	3頭（1頭×3回接種）

7 地域自衛防疫強化特別対策事業（家畜衛生推進協議会）**その他**

生産現場における自衛防疫体制の強化を図るため、生産者参加による防疫演習の実施、特定悪性慢性感染症の清浄化等の事業を行った。

区分	行事名等	実施月日	実施場所	概要
県域防疫演習	HPAI 防疫演習 （県演習に共催）	10月17日	千葉市農政センター（千葉市）	参加者 292名 内生産者等 5名
慢性感染症清浄化支援対策	牛白血病清浄化推進実証モデル	随時	酪農：1戸 （南部家保管内）	抗体検査、陽性牛のとう汰（4頭）、防虫等の衛生管理対策を実施
	牛白血病対策推進中核農場構築モデル	随時	酪農：2戸 （南部家保、北部家保管内）	抗体検査、防虫等の衛生管理対策の実施
	牛マイコプラズマ性乳房炎対策モデル	年2回検査	酪農：50農場	マイコプラズマのスクリーニング、分離同定

8 農場HACCP取組体制緊急強化事業（（公社）中央畜産会）**公益**

農場 HACCP の普及促進を図るため、農場 HACCP 推進農場の実態を調査するとともに、認証に向けて取組む農場に対して技術指導者を派遣し、効果的な指導・支援を行い、認証普及を図った。

(1) 普及推進協議会等会議の開催

①普及推進協議会：3回、 ②地域取組促進活動：3回

(2) 農場 HACCP 認証構築指導推進事業

①農場 HACCP 構築指導に係る意見交換会の開催：3回

②農場 HACCP 構築指導事業

対象農場：酪農4農場、肉牛14農場、豚23農場、採卵鶏3農場
ブロイラー1農場 計45農場 農場 HACCP 指導員：15名

9 野生獣衛生体制整備推進確立対策事業

(家畜衛生対策推進協議会 事務局：中央畜産会) **その他**

野生獣による家畜への伝染病の伝播拡散や人畜共通感染症の浸潤等、家畜衛生管理上の危害の防止を図るため、イノシシ、シカ等の野生獣に係る衛生実態等の調査、畜舎侵入防止対策及び衛生管理に関する広報の普及を図った。

(1) 地域衛生技術連絡協議会：3回（研修会1回）

(2) 野生獣の衛生実態等調査

シカ：21頭9項目（E型肝炎、サルモネラ感染症、カンピロバクター感染症、腸管出血性大腸菌感染症、トキソプラズマ病、日本脳炎、牛ウイルス性下痢粘膜病、重症熱性血小板減少症候群、住肉胞子虫）

イノシシ：26頭9項目（E型肝炎、サルモネラ症、オーエスキー病、トキソプラズマ病、豚丹毒、豚流行性下痢、日本脳炎、豚パルボウイルス症、重症熱性化粧版減少症候群）

10 地域豚疾病緊急対策推進事業（(公社)中央畜産会) **その他**

養豚主要生産地域である旭市において、生産性を阻害するPRRSの発生低減やバイオセキュリティの強化に取り組む自衛防疫組織に対して、必要な防疫対策などに係る経費の助成を行い、生産性の向上を図る。

(1) 対象 旭市養豚推進協議会の生産者 63農場（50戸）

(2) 地域推進会議

区分	実施月日	実施場所	概要
マネジメント会議	平成29年6月26日	旭市役所干潟支所	出席者 16名
	平成29年7月18日		出席者 18名
	平成29年9月8日		出席者 16名
	平成29年11月29日		出席者 17名
全体会議	平成29年6月28日	旭市役所干潟支所	出席者 35名
	平成30年2月15日		出席者 39名
研修会	平成29年7月7日	ヒューマンプラザ黄鶴	出席者 82名
	平成29年9月26日	旭市役所干潟支所	出席者 19名

(3) 実施内容

実施内容	抗体検査 (ELISA)	遺伝子検査 (PCR)	遺伝子検査 (ORF5-PCR)	シーケンス 検査
農場の PRRS コントロールに関する指導	56 農場、94 回			
	-	-	-	-
着地検査	4 農場、18 回、338 頭			
	338 検体	60 検体	-	-
モニタリング検査	51 農場、51 回			
	1,664 検体	385 検体	-	-
強化モニタリング検査	5 農場、11 回			
	534 検体	132 検体	26 検体	5 検体
母子感染検査	2 農場、2 回			
	-	12 検体	-	-

1.1 市町村等自衛防疫活動支援事業（協会単独）**公益**

当協会が実施する家畜衛生業務の円滑かつ的確な推進を図るため、市町村家畜防疫会等の行う自衛防疫活動に対して支援・指導を行った。

（活動支援助成金交付先）

①市町村家畜防疫会 48 団体 ②地域家畜防疫獣医師会等 3 団体

1.2 特定疾病損耗防止事業（協会単独）**公益**

下記疾病に対して予防接種を推進した。

牛伝染性鼻気管炎ワクチン	2, 399 頭
豚丹毒生ワクチン	2, 802 頭
日本脳炎・パルボワクチン	319 頭
オーエスキー病ワクチン	1, 163, 040 頭

1.3 養鶏研修会（協会単独）**公益**

高病原性鳥インフルエンザの防疫対策に資するため、養鶏農家及び関係機関・団体・業者等を対象に研修会を開催した。

（研修会概要）

- ・開催日時：平成 29 年 8 月 29 日（火）
- ・開催場所：成田国際文化会館

演題 1：新潟県で発生した高病原性鳥インフルエンザの対応について

講師－新潟県農林水産部畜産課家畜衛生係長 里麻啓先生

演題 2：千葉県で発生した鳥インフルエンザ(疫学調査)の対応について

講師－千葉県中央家畜保健衛生所衛生指導課長 坂元依子先生

情報提供：飼養衛生管理基準と初動防疫対策について

講師－千葉県中央家畜保健衛生所衛生指導課長 坂元依子先生

- ・出席者：養鶏農家及び関係機関・団体等 88 名
- ・共催及び後援機関・団体：8 団体

1 4 飼養衛生管理基準等緊急啓発普及促進事業（（公社）中央畜産会）**その他**

「飼養衛生管理基準」の改正後の情報を関係者の迅速に周知・徹底し、不測の事態に備えた防疫体制の強化・推進を図った。

・啓発普及説明会等の開催：3回

Ⅲ 畜産の活性化を進める事業

1 畜産関係団体調整機能強化事業（（公社）中央畜産会）**その他**

畜種を越えた畜産に携わる女性の集まり「ちば畜産レディースネットワーク」の活動を支援した。

また、本県の畜産・畜産物の理解と消費拡大を図る「千葉県畜産フェア」及び地方競馬の振興のため千葉県畜産賞（冠レース）を船橋競馬場で実施した。

2 畜産フードチェーン連携推進事業（協会単独）**公益**

消費者の県産畜産物に対する理解促進を図るため、県産豚肉を使った加工体験教室（ウインナー作り）を市町村及び関係団体の協力により印西市花の丘公園で親子を対象に実施した。

3 畜産フェア（協会単独）**公益**

地域住民並びに千葉県民等に対して千葉県の畜産・畜産物に理解を深めていただくため、第11回目の畜産フェアを11月11日（土）船橋競馬場ふれあい広場において開催した。

県内畜産関係の25団体が出展し、千葉県畜産の現状等の普及啓発、骨密度測定や栄養相談、牛・豚焼肉、豚しゃぶ、豚スペアリブ、串焼、乳製品、卵・厚焼玉子、アイスクリーム、はちみつ等の千葉県産畜産物等の試食販売を行った。

今年度については、ダートマラソンが復活し昨年度以上の賑わいを見せた。

また、来場者には畜産フェア内のお店で買い物をするともらえる抽選券や、無料で参加できるスタンプラリー表で、協賛いただいた団体から豪華な畜産品が当たる大抽選会を実施し、県産畜産物の消費拡大を図った。

Ⅳ 畜産物の品質向上を図る事業

1 養豚改良対策事業 その他

登記登録を含めた業務を通じ本県の豚の改良推進と強化を図った。

1) 登録事業（協会単独）

優良種豚改良の基本となる登録を（一社）日本養豚協会登録規定に基づき実施した。

種豚登録 205 頭、子豚登記 390 頭、肉豚証明 528 頭、移動証明 8 頭

2) 優良種豚場認定事業（（一社）日本養豚協会）

農家戸数の減少、規模拡大に伴い種豚の供給を担うブリーダーの役割は限定されてきている状況にある。

厳しい生産現場の状況を考えると、より能力（繁殖性・産肉性）の高い種豚の改良・確保が最も重要であることから、種豚の生産基盤強化と登録事業の推進を図るため（一社）日本養豚協会認定規定に基づく認定により育成強化を図った。

遺伝資源保存指定種豚場 4 場

3) 原種豚認定事業（協会単独）

（一社）日本養豚協会指定種豚場を対象とした事業として、本県純粋種豚の改良、資源確保のため本事業により助成・強化推進を図った。

認定農場に対する助成 4 農場

血統能力の証明に対する助成

種豚登録 183 頭・子豚登記 184 頭

4) 肉豚共進会事業（県）

肉豚の改良成果を競い合い、もって種豚の重要性和品質の高い豚肉生産技術の向上を図るため開催した。

出品頭数 92 組 184 頭

2 千葉県産オリジナル豚肉生産体制強化事業（県）その他

平成 28 年 1 月に系統豚として認定されたランドレース種「ボウソウ L4」について県内銘柄豚肉の素豚としての活用を促進し、銘柄豚肉の生産性向上および肉質の安定化を図るため、繁殖素豚の衛生的な生産体制構築および、L4 導入農場における成績を客観的に評価し、改善に向けた検討を行なうことで、銘柄の生産性向上に向けた生産・供給体制及び L4 の普及体制の構築を図った。

調査農場 5 場 34 腹

V 畜産経営の安定化を図る事業

1 肉用子牛生産者補給金制度（（独）農畜産業振興機構）公益

（１）肉用子牛生産者補給金交付に係る業務

肉用子牛生産安定等特別措置法に基づき、生産者補給金の交付等の事業を通じ、肉用子牛生産の安定と経営の健全な発展に努めた。

①平成２９年度生産者補給金交付契約締結者 １６７人

②事務委託先契約締結数 １２件

１）契約肉用子牛の個体登録

（単位：頭）

区分 品種	平成 29 年 1 月 1 日～ 3 月 31 日	平成 29 年 4 月 1 日～ 6 月 30 日	平成 29 年 7 月 1 日～ 9 月 30 日	平成 29 年 10 月 1 日～ 12 月 31 日	計
黒毛和種	183	239	223	180	825
褐毛和種	—	—	—	—	—
その他肉専	0	0	2	1	3
乳用種	706	705	610	592	2,613
交雑種・乳	2,419	2,452	1,997	1,919	8,787
計	3,308	3,396	2,832	2,692	12,228

２）生産者積立金の積立額

品 種	契 約 頭 数 (頭)	積 立 単 価 (円)	積 立 額 (円)	負 担 区 分 (円)		
				農畜産業 振興機構	千葉県	生産者
黒毛和種	825	1,200	990,000	495,000	247,500	247,500
褐毛和種	—	—	—	—	—	—
その他肉専	3	12,400	37,200	18,600	9,300	9,300
乳用種	2,613	6,400	16,723,200	8,361,600	4,180,800	4,180,800
交雑種・乳	8,787	2,400	21,088,800	10,544,400	5,272,200	5,272,200
計	12,228	—	38,839,200	19,419,600	9,709,800	9,709,800

3) 生産者補給金交付状況

(単位：円、頭)

区 分	保証基準価格の品種区分		黒毛和種	その他肉専	乳用種	交雑種・乳	合 計
平成 29 年 1 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 6 月 30 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
平成 29 年 7 月 1 日 ～ 平成 29 年 9 月 30 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
平成 29 年 10 月 1 日 ～ 平成 29 年 12 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
合 計 平成 29 年 1 月 1 日 ～ 平成 29 年 12 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-

2 肉用牛繁殖経営支援事業（(独)農畜産業振興機構）公益

肉用子牛生産者補給金制度を補完し、子牛価格が発動基準を下回った場合に支援交付金を交付することで、肉用牛繁殖基盤の安定に努めた。

1) 支援交付金交付状況

区 分	品種区分	交付対象		支援交付金交付申請	
		人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付申請額 (円)
平成 29 年度 第 1 四半期 (平成 29 年 4～6 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-
平成 29 年度 第 2 四半期 (平成 29 年 7～9 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-
平成 29 年度 第 3 四半期 (平成 29 年 10～12 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	1	1	46,300	46,300
	小 計	1	1	-	46,300
平成 29 年度 第 4 四半期 (平成 30 年 1～3 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	2	2	36,000	72,000
	小 計	2	2	-	72,000
合 計	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	3	3	-	118,300
	合 計	3	3	-	118,300

3 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業

((独) 農畜産業振興機構) 公益

1) 制度運営適正化推進事業

肉用子牛生産者補給金制度にかかる業務の適正な実施を図るため、全国統一電算処理システムによる業務の充実と事務委託先との個体登録個体識別及び販売・保留確認等の業務の委託により適正かつ円滑な実施に努めた。

2) 指定協会運営体制支援事業

生産者補給金制度の推進のための実施体制の確立と運営基盤の安定化のために、財政的支援を得て、協会運営の財政的基盤の強化を図り、肉用子牛生産者補給金制度の適正な運営に努めた。

4 肉用牛肥育経営安定特別対策事業（(独)農畜産業振興機構）**公益**

肉用牛肥育経営は、もと畜の導入から肥育牛の出荷まで一定期間を要し、かつ、生産費に占めるもと畜費の割合が大きいことから、もと畜価格と枝肉価格の水準によっては大幅な収益性の悪化が懸念される。

このため、契約生産者積立金及び独立行政法人農畜産業振興機構からの補助金をもって肥育安定基金を造成し、肥育牛補填金を交付することで肉用牛肥育経営の安定に努めた。

平成29年度 肉用牛肥育経営安定特別対策事業 補填金交付状況

期間	品種区分	交付対象		肥育牛補填金	
		人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付額 (円)
4 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	53	943	10,800	10,184,400
	乳用種	15	345	55,200	19,044,000
	小計	68	1,288		29,228,400
5 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	48	694	48,300	33,520,200
	乳用種	15	343	39,900	13,685,700
	小計	63	1,037		47,205,900
6 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	42	700	56,600	39,620,000
	乳用種	20	361	39,400	14,223,400
	小計	62	1,061		53,843,400
7 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	52	754	64,400	48,557,600
	乳用種	18	397	39,900	15,840,300
	小計	70	1,151		64,397,900
8 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	39	700	81,000	56,700,000
	乳用種	16	369	45,900	16,937,100
	小計	55	1,069		73,637,100
9 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	45	696	73,500	51,156,000
	乳用種	16	340	39,200	13,328,000
	小計	61	1,036		64,484,000

10 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	52	759	72,700	55,179,300
	乳用種	15	355	35,300	12,531,500
	小計	67	1,114		67,710,800
11 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	53	1,028	60,000	61,680,000
	乳用種	16	385	23,500	9,047,500
	小計	69	1,413		70,727,500
12 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	59	960	30,000	28,800,000
	乳用種	19	332	21,200	7,038,400
	小計	78	1,292		35,838,400
1 月期	肉専用種	29	162	1,900	307,800
	交雑種	43	647	50,100	32,414,700
	乳用種	13	283	29,000	8,207,000
	小計	85	1,092		40,929,500
2 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	47	716	72,300	51,766,800
	乳用種	10	217	31,700	6,878,900
	小計	57	933		58,645,700
3 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	53	793	84,600	67,087,800
	乳用種	12	257	28,500	7,324,500
	小計	65	1,050		74,412,300
合計	肉専用種	29	162		307,800
	交雑種	586	9,390		536,666,800
	乳用種	185	3,984		144,086,300
	小計	800	13,536		681,060,900

5 豚肉生産安定対策事業（県）公益

農畜産業振興機構が実施する養豚経営安定対策事業の生産者負担金の一部を助成し、養豚経営の安定と肉豚の安定的な生産確保に努めた。

VI 調査研究及び研修に関する事業

1 乳用種初生牛の経営に関する調査事業（(公社)中央畜産会) **その他**

畜産を取り巻く厳しい情勢の下、乳用後継牛及び肉用素牛の確保を図る上で、良質で安定した乳用種初生牛の生産が課題にあるため、乳用種初生牛の生産費用等について、酪農家12戸を対象に調査を行った。

VII 特別事業

1 種豚改良対策基金（協会単独) **その他**

指定種豚場を対象とした原種豚農場の認定による本県純粋種豚の改良の促進と品質の高い豚肉を効率よく生産するための各種事業推進を図るためこの基金を有効に活用した。

VIII その他

1 千葉県畜産物消費拡大推進協議会関連事業 **その他**

安全・安心等消費者ニーズに応える県産物の銘柄等を推進し「千葉ブランド」を県内・首都圏に向け千産千消・千産全消の確立を目指している生産者団体が船橋市船橋競馬場（船橋ふれあい広場）において千葉県畜産フェアを開催した。

また、他団体が開催したイベント等に積極的に参加しPR活動を実施した。

2 千葉県養蜂協会関連事業 **その他**

(1) 養蜂振興推進事業（県委託事業）

養蜂振興法に基づき、県外からの転飼者の調整を実施した。

また、蜜源植生状況調査、花粉交配実態調査、蜂蜜等生産量調査並びに寄生虫の発生状況調査を実施した。

(2) ポリネーション推進事業

県果樹連等と交渉し、梨花粉交配用蜜蜂を貸し出した。

(3) 販売対策事業

千葉県畜産フェアへ出展し、消費者へ養蜂や蜂製品に対する理解を深めた。また、千葉県畜産賞「三里塚特別競走」の副賞として蜂蜜を提供した。

(4) 蜜源増殖対策事業

蜜源植物の苗木（椿、桜等）を共同購入し会員に配布、植栽を行った。

(5) 養蜂技術研修事業

アリストヘルスアンドニュートリションサイエンス(株) 近藤氏、昆虫芸術研究家 柏田氏を講師に招きご講演いただいた。(平成30年3月22日、館山市 安房自然村)

(6) 防疫対策事業

ダニ駆除薬等（アピスタン、アピパール）を共同購入し、会員に配布した。

(7) 養蜂飼料等斡旋物資対策事業

一般社団法人日本養蜂協会の斡旋による輸入免税砂糖等の共同購入を行い、会員に配布した。

3 馬事畜産振興推進事業 **その他**

(1) 平成29年9月29日 船橋競馬場会議室において平成29年度千葉県馬事畜産振興協議会総会を開催し、平成28年度事業報告及び収支決算、平成29年度計画及び収支予算について審議・決議した。

(2) 平成29年10月26日、船橋競馬場において、千葉県馬事畜産振興協議会と協賛して、冠レース・千葉県畜産賞「三里塚特別」を実施し、優勝馬関係者に対して賞状並びに副賞を授与した。

(2) 平成29年11月11日、千葉県競馬組合が実施する「ふれあい広場」へ参加し、馬事畜産振興コーナーを設置し、パンフレット等の配布を行い地方競馬の普及啓発を図った。

4 ナイス・ポーク・チバ推進協議会関連事業 **その他**

養豚経営の安定強化と産業振興を図るため、生産者自らの資金拠出による活動の柱である、県産（国産）豚肉の消費拡大、養豚経営安定強化のための政策要請、後継者育成のための青年部等の活動に対し、協会として生産者の活動を支援するため事務を取り扱った。

実 績

- ① イベントでの消費者交流により県産（国産）豚肉の消費拡大推進
- ② 国産豚肉消費拡大のため、養豚チェックオフ制度法制化推進
- ③ 自由民主党県議会議員会畜産振興議員連盟との情報交換
- ④ オーエスキー病清浄化のための要請と清浄化の推進
- ⑤ 養豚におけるクラスター事業への積極的参加
- ⑥ サポーター会員制度による県産（国産）豚肉のPR推進
- ⑦ 関東ブロックによる養豚振興のための情報交換参加
- ⑧ 熊本地震被災支援のための募金活動
- ⑨ 組織強化のための会員加入推進
- ⑩ 生産性向上のための講習会、研修会の開催及び協賛
- ⑪ 養豚経営安定対策事業（全国肉豚）の業務委託に伴う農家指導
- ⑫ （一社）日本養豚協会（JPPA）との連携による活動

***農業競争力強化プログラムの推進**

政府の「農林水産業・地域の活力創造本部」において決定した「農業競争力強化プログラム」の一つに掲げられたチェックオフ導入について

「養豚チェックオフ協議会」設置され、協議検討されたスキーム(案)について、県下地域生産者会員との意見交換会を開催した。

5 千葉県自家検定推進協議会関連事業 その他

原種豚の確保と能力の高い種豚の改良を担う生産者に対し、協会の執行事業関連事務を取り扱った。

6 ちば畜産レディースネットワーク関連事業 その他

畜種を越えた畜産に携わる女性のネットワークとして、平成19年3月に設立、会員は女性経営者をはじめ県関係機関・団体女性職員等の55名(内3賛助団体)で、会員相互の情報交換・研修・消費者交流等の活動への支援等、事務を取り扱った。

- ① 情報交換会として、総会終了後、参加者全員から1分間スピーチをいただき、日頃思っていること、経営内容の紹介等多方面にわたる意見・情報の交換を行った。
- ② 研修会として、本年度は沖縄県宮古島市へ視察に行った。宮古和牛改良組合女性部との交流会や宮古島市副市長室表敬訪問等行った。
- ③ 消費者交流として、千葉県畜産フェアに出展し「豚スペアリブ」の販売を行った。また、会員の方の加工品等の販売を行った。多数の県民・消費者がレディースのブースにいらっしゃり、販売はもちろん、畜産に関わること等話をし、消費者交流を行った。

7 NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター関連事業 その他

畜産に係わる生産者等への支援や畜産振興に向けた消費者等との交流を図るために設立した。現在会員は、団体・個人会員を含めて79名です。

当畜産協会が行う下記の畜産支援事業や人材情報システム運営及び団体事務受託、消費者交流・動物情操教育事業について、その一部をNPO法人に委託、または協力を得て実施した。

(1) 畜産経営支援事業

- ・ 畜産情報収集・提供事業 ・ 農場HACCP取組体制緊急強化事業
- ・ 馬事畜産振興推進事業 ・ 野生獣衛生体制整備推進確立対策事業
- ・ 千葉県エコフィードコーディネーター設置事業
- ・ 死亡牛の受入及び保管等補助業務(県公募事業)

(2) 人材情報システム運営及び団体事務受託

- ・ 県農業大学校畜産関係非常勤講師派遣

(3) 消費者交流・動物情操教育事業

- ・ 千葉県畜産フェア「畜産何でも相談コーナー」設置
- ・ 千葉県畜産フェアで消費者を対象とした農場HACCPに関する概要説明やパネル展示の説明、アンケート調査に協力した。

8 千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会関連事業 その他

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、放射能物質により汚染された稲わらが流通し牛肉などに風評被害が出ている問題で、千葉県内の肉用牛生産農家が損害賠償請求を行うため、平成23年度に設立された「千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会」の事務局を平成29年度も引き続き行い、県の指導と下記支援団体の協力を得て賠償請求を行った。

<支援団体>

千葉県家畜商協同組合、千葉県肉牛生産農業協同組合、
千葉県配合飼料価格安定基金協会〔千葉県全日本畜産経営者協会〕、
一般社団法人千葉県農業協会（肉用牛部会）、株式会社千葉県食肉公社、
横芝光町（東陽食肉センター）、
県南畜産処理事業協同組合（南総食肉センター）

（1）請求状況

請求次	請求者数	請求金額（千円）	請求日
1	99	447,441	平成23年11月15日
2	109	562,226	平成23年12月28日
3	122	1,014,603	平成24年 3月30日
4	138	677,275	平成24年 9月 5日
5	94	328,062	平成24年10月17日
6	94	75,794	平成24年11月26日
7	114	112,417	平成25年 2月22日
8	99	56,434	平成25年 5月22日
9	93	28,302	平成25年 8月26日
10	66	8,609	平成25年10月21日
11	93	14,063	平成25年 3月11日
12	57	6,091	平成26年 5月19日
13	66	7,850	平成26年 8月27日
14	76	7,533	平成26年11月27日
15	80	10,359	平成27年 2月26日
16	62	6,784	平成27年 6月 5日
17	68	7,447	平成27年 9月 3日
18	75	11,807	平成27年11月30日
検体1－1	19	15,615	平成28年 2月26日
19	72	14,333	平成28年 4月14日
検体1－2	19	13,175	平成28年 4月20日

検体 2-1	3 5	6,286	平成 28 年 5 月 6 日
2 0	7 2	12,444	平成 28 年 6 月 13 日
検体 2-2	4 3	8,283	平成 28 年 7 月 28 日
2 1	6 0	11,790	平成 28 年 9 月 14 日
2 2	6 6	14,043	平成 28 年 12 月 19 日
2 3	6 8	15,144	平成 29 年 3 月 9 日
2 4	6 2	14,203	平成 29 年 6 月 14 日
2 5	6 4	13,044	平成 29 年 9 月 20 日
2 6	6 7	16,677	平成 29 年 12 月 19 日
2 7	7 2	15,195	平成 30 年 3 月 29 日
計		3,551,329	

※第 6 次請求から肉用牛の肥育に係る請求方法が積上方式から下落率方式へ変更され全国統一の様式となった。

第 11 次請求から 17 次請求まで検査料のみの請求となった。

第 6 次請求から第 17 次請求までの検体重量分が請求の対象となった。

第 18 次以降は検体代と検査料を合わせた請求へ移行した。

検体代の請求はかなりの年数を遡り作成しているため事務量が多い。このため、請求のあった生産者がある程度まとまった段階で請求することとし、区分のためハイフンを付している。

(2) 支払状況

請求次	支払者数	支払金額 (千円)	支払完了日
1	9 9	420,152	平成 23 年 12 月 30 日
2	109	534,553	平成 24 年 3 月 30 日
3	122	1,134,984	平成 25 年 2 月 21 日
4	138	673,651	平成 25 年 2 月 21 日
5	94	324,433	平成 25 年 4 月 2 日
6	94	84,811	平成 25 年 8 月 23 日
7	114	110,045	平成 25 年 11 月 11 日
8	99	55,088	平成 25 年 11 月 11 日
9	93	27,847	平成 25 年 12 月 12 日
10	66	8,542	平成 26 年 1 月 8 日
11	93	14,088	平成 26 年 8 月 8 日
12	57	6,091	平成 26 年 7 月 22 日
13	66	7,850	平成 26 年 10 月 28 日
14	76	7,533	平成 27 年 1 月 19 日
15	80	10,347	平成 27 年 5 月 27 日

1 6	6 2	6,7 8 0	平成27年 8月11日
1 7	6 8	7,4 4 7	平成28年 4月11日
1 8	7 5	11,7 5 7	平成28年 8月 5日
1 9	7 2	14,3 2 7	平成28年12月13日
2 0	7 2	12,4 3 7	平成28年11月18日
2 1	6 0	11,7 9 0	平成28年12月14日
2 2	6 6	14,0 4 3	平成29年 3月28日
2 3	6 7	14,4 0 8	平成29年 6月16日
2 4	6 2	14,1 9 7	平成29年 9月15日
2 5	6 4	13,0 4 4	平成30年 3月23日
検体1-1	7 8	15,5 9 1	平成28年 7月22日
検体1-2	1 9	13,0 1 7	平成28年 8月15日
検体2-1	3 5	6,2 8 3	平成28年 8月15日
検体2-2	4 3	8,2 1 9	平成28年12月12日
計		3,5 2 7,6 6 3	

※支払完了日は各請求次における最終支払者の日付である。

(3) 請求対象期間

請求次	期 間
1	平成23年 7月 8日～平成23年 9月30日
2	平成23年10月 1日～平成23年11月30日
3	平成23年12月 1日～平成24年 2月29日
4	平成24年 3月 1日～平成24年 5月31日
5	平成24年 6月 1日～平成24年 7月31日
6	平成24年 8月 1日～平成24年 9月30日
7	平成24年10月 1日～平成24年12月31日
8	平成25年 1月 1日～平成25年 3月31日
9	平成25年 4月 1日～平成25年 6月30日
10	平成25年 7月 1日～平成25年 8月31日
11	平成25年 9月 1日～平成25年12月31日
12	平成26年 1月 1日～平成26年 3月31日
13	平成26年 4月 1日～平成26年 6月30日
14	平成26年 7月 1日～平成26年 9月30日
15	平成26年10月 1日～平成26年12月31日
16	平成27年 1月 1日～平成27年 3月31日
17	平成27年 4月 1日～平成27年 6月30日
18	平成27年 7月 1日～平成27年 9月30日

検体 1	平成 24 年 8 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日
検体 2	平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日
19	平成 27 年 10 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日
20	平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
21	平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日
22	平成 28 年 7 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日
23	平成 28 年 10 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日
24	平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
25	平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日
26	平成 29 年 7 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日
27	平成 29 年 10 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日

※第 2 次以降の請求については、未請求・請求漏れを含む場合がある。

9 チバザビーフ協議会関連事業 その他

(1) 県産牛肉ブランド力向上対策事業（県補助事業）

県産牛肉のブランド力向上に不可欠な出荷頭数の拡大と高品質化及び銘柄牛肉の知名度向上に努めた。

【チバザビーフ知名度向上対策事業】

① 推進活動

総会・講習会（平成 29 年 7 月、マロウドインターナショナルホテル成田）及び理事会・専門部会（6 月、9 月、12 月、計 3 回）を開催した。

② 広報活動

- ・エアポートマーケット『空市』（平成 29 年 4 月、成田空港）出店
- ・チバテレスペシャルウィーク（5・6 月）協賛
- ・プレミアム千葉フェスタ（9 月、伊勢丹松戸店）協賛
- ・2017 動物感謝デー in JAPAN（9 月、駒沢オリンピック公園）出店
- ・東葛六市レストランサミットフードフェスタ 2017（10 月、柏高島屋）協賛
- ・千葉県畜産フェア（11 月、船橋競馬場）協賛
- ・千葉テレビ「熱血 BO-SO TV」（11 月）出演
- ・千葉の牛肉 チバザビーフフェア in 成田（11 月）開催
- ・第 18 回全国穴掘り大会（平成 30 年 2 月、成田ゆめ牧場）協賛
- ・チバザビーフ枝肉共励会・前夜祭（平成 30 年 2 月、第一ホテル東京シーフォート）開催
- ・その他 各銘柄でのチバザビーフ PR 活動支援
ホームページの作成
販促資材（シール等）の作成

【チバザビーフ肥育技術向上対策事業】

枝肉品評会の開催

千葉県肉牛生産者の研鑽の機会を創出し、飼養管理技術の向上を図るとともに、食肉流通業者等へ県産牛肉の知名度向上を図るため、集荷量日本一の東京中央卸売市場において枝肉共励会・研究会を開催した。

枝肉共励会 年1回（平成30年2月）

〈出品頭数〉82頭（黒毛和種 34頭、交雑種48頭）

枝肉研究会 年2回（平成29年7月、11月）

〈出品頭数〉 7月：61頭（黒毛和種 27頭、交雑種 34頭）

11月：60頭（黒毛和種 21頭、交雑種 39頭）

10 チバザポーク販売推進協議会関連事業 その他

千葉県の銘柄豚肉出荷団体が連携しチバザポークの知名度向上と販売促進に努めた。

①連絡会議の開催

県産豚肉の知名度向上のための連絡会議を年4回開催した。

②PR活動

- ・船橋競馬場冠レースでの試食・販売
- ・プレミアム千葉フェスタでのPR（伊勢丹松戸店）
- ・千葉県畜産フェアでのPR（船橋競馬場）
- ・チバザポークフェスタ2017（県内7社のホテル）
- ・酪農のさと秋の観光まつりにて試食
- ・千葉県フェアでのPR（マックスバリュおゆみ野）

③県産豚肉販売力強化事業

- ・ポスター作成によるチバザポークの知名度向上に努めた。
- ・JGAP取組みのための講習会を開催した。

④その他

- ・チバザポークホームページを開設した。